

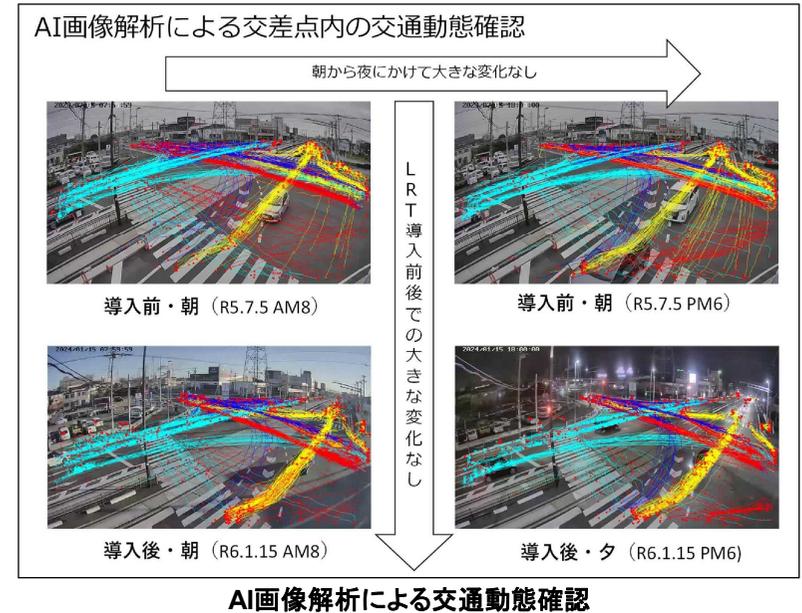
⑯【複数年度(2年目)】栃木県宇都宮市東部地域における新たな基幹交通の導入に伴う道路交通マネジメントについて(栃木県)

1. 実験概要、留意すべき項目

- LRTの試験走行及び本格運行の各時点における交通量データ等を収集・分析し、信号現示調整のほか、交通手段の転換(パーク&ライド)や目的地までの経路変更等による道路交通の円滑化を検証する。
- 新交通システム(LRT)導入によるパークアンドライド等の交通モード転換の分析は全国的な事例がないため、参考事例となる可能性が高く、推奨すべき取組みとなること。

2. 実験内容、実験結果

- ①LRT本格運行時における既存道路CCTVを活用したAI画像解析による交通量の蓄積
⇒AI画像解析ソフトによる自動車交通量の検知率は概ね8割以上
- ②ETC2.0及び民間プローブデータを用いた旅行速度等交通状況データの蓄積
⇒ETC2.0及び民間プローブデータによる旅行速度は概ね一致
- ③自動車交通の渋滞緩和
⇒LED表示板による所要時間の情報提供は旅行速度の向上に寄与
⇒迂回する意思の有無は、移動の起終点や経路との関連性が強い
- ④新たな公共交通を活用した道路交通の円滑化
⇒LRT導入による道路交通への大きな混乱は生じていない



3. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
LED表示板による迂回誘導の短期的・中長期的な目標はどのようなものか。道路容量は増加などの検討は含むのか。	LED表示板による迂回誘導は、現在の道路容量の中で対応する短期的な取組。中長期的にはP&R等の利用によりLRTの利用を促していきたい。
バスのフィーダ一路線沿線へのアンケート調査を行うなどして、利用促進するなど、自動車利用者をターゲットにした渋滞対策だけではなく総合的な取組としてはどうか。	フィーダ一路線の利用促進は、宇都宮市・芳賀町と連携して検討していく(現在検討実施中)。自動車利用だけではなく、公共交通利用等も含めた取組とするよう検討する(次年度の新たな協議会体制を調整中)。
LED表示板は継続して設置できる取組を検討して欲しい。	LED表示板の今後の取組については、交通状況を継続してモニタリングした上で検討していく(継続モニタリングを予定)。

⑩【複数年度(2年目)】栃木県宇都宮市東部地域における新たな基幹交通の導入に伴う道路交通マネジメントについて(栃木県)

4. 本格実施に向けた課題、今後の取り組み予定

課題	対応方針
AI画像解析ソフトを用いた自動車交通量と、画像を人手観測した自動車交通量(真値)を比較する検知率について、ばらつきが生じている。	検知率がばらつく要因を解消した上で、引き続きデータの蓄積を行った上で、継続的に交通量の変化についてモニタリングを実施していく。
今回の実験対象の地域では、民間プローブデータによる平均旅行時間の取得が有効であると評価できるが、断面交通量の取得状況については地域および現場条件によって異なる。	他地域での活用の際は、改めて地域特性を把握確認した上で、プローブデータの適用について検討していく。
鬼怒通りの渋滞要因となっている流入路について東側に移動していることが確認された。	渋滞予測モデルを活用し渋滞要因となるポイントを絞ることで、渋滞対策立案の基礎資料とするよう検討していく。
LED表示板による迂回誘導は、各経路の交通量を平準化し旅行速度の向上に効果があることが確認できた一方で、効果の大きさは周辺の道路環境や実施する時期により差がある。	迂回する意思がある自動車運転者を対象に、表示時間の差が一定程度ある場合に効果的であることが分かったため、これらを踏まえた上で、実施箇所・実施時期等について検討していく。

5. 今後のスケジュール

- R6年度～ 交通量の変化やLRT利用状況等をモニタリング、新たな道路交通の混乱がないか継続的に確認協議会等を通して課題を抽出

6. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- 大きな道路環境の変化がある場合には、想定される課題に対する事前の対応も重要であるが、事後の継続的なモニタリングを実施し想定外の問題に備える体制が重要であり、その問題を解決する有効的な技術的手段を整理し準備していくことが重要であると考えます。